

「やりがい」を感じることでできる授業

単元名

働くためにⅢ「進路を考える」

日 時	平成24年 2月17日(金) 2校時	
対 象	高等部知的障害学級 2年就労B班	指導形態 生活単元学習
場 所	高等部2年1組教室	指導者 小牟田(CT) 野口(ST)

単元における生徒の実態

この班は、知的障害学級高等部2年生の男子4人女子2人の計6人で構成されている。1年生ではクラスごとでの進路学習をしていたが、2年生では卒業後の進路を見据え、就労A・B班と福祉施設A・B班(計4班)にグループ分けし、この班は就労B班である。この班は、「将来、就労を目指すための社会生活に必要なスキルを身に付ける」ことを大きな目標としている。就労移行支援等も視野に入れ、将来的には企業への就職を目指すために、個々の課題を解決していくことを目的としている。

10月末に後期産業現場等における実習を体験し、各自の今後の課題も明確になってきた。実習後の「実習での反省点と今後の課題は何ですか?」という質問では、実習ノートで振り返りながらの反省だったが、「職場の人とのコミュニケーションが難しかった。」「自分から分からないことを質問することができなかった。」「あいさつ、報告・連絡・相談がきっちりできなかった。」等の答えが多かった。一方で、「自己紹介が上手にできて褒められた。」という生徒もおり、実習初日に良いスタートができ、その後の実習を自信をもって取り組んだ生徒もいた。この生徒は学校生活では他者とのかかわりに課題をもっていったが、授業で他己紹介、自己紹介と練習を繰り返すことで、自信をもって実習に臨むことができた。このことは授業での取り組みがその後の実習で生かされ「やりがい」へとつながったのではないかと考えられる。その後この生徒は授業での取組が結果に結びついたことで、進路学習に対する姿勢とあいさつや発表意欲等に大きな変化が見られるようになってきた。また、実習先からのアンケートでは、「人前で話すことや人とのかかわり」「報告・連絡・相談」「休息時間の過ごし方」に課題が多いことが挙げられた。この背景には、知的障害のある生徒の学習上の特性である、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことや成功体験が少ないことにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが考えられる。校内実習や産業現場等における実習に意欲的に取り組むためにも、他者とのかかわり、コミュニケーションの不安を取り除き、自信をもって実習に集中できるようにしたい。そのためには自分の良さや課題に気づき、具体的解決方法を知り実践する態度を養うことが必要だと考える。

単元の意義・価値

2年生の校内実習における目標は「作業学習等の体験的な学習を通して、身辺処理等の基本的な生活習慣を確立し、働く意欲や態度を育てることができる」である。また、産業現場等における実習の目標は、「社会人として必要な基本的な知識、技術及び態度を身に付けることができる」である。これらをふまえて、高等部では日ごろから卒業後の生活に向け、日記や日誌の書き方、身だしなみ、あいさつ、返事、言葉遣い等、様々な生活習慣について、学校生活全般で取り組んでいる。これらの活動の成果の確認、今後の課題の発見の場として、産業現場等における実習の役割は大きい。産業現場等における実習で明確になった、生徒各自の課題についての的確な指導を行うことが必要だと考える。

ねらい

本単元では、商品PRや自己PRの効果的なやり方を知り練習することで、知識や経験が四者面談や産業現場等における実習等で役立つことに気付くことができる。

指導観

具体的には、①社会の一員として自分のことについて話すことができる。②分からないことを自分から聞くことができる。③初対面の人とも世間話ができる、等の課題を解決することができるようにしていきたい。また、学校では実態を把握している教師が個々に対応することが可能だが、社会に出てからは個々への対応には限界があり、自分の状況や考えを相手に伝えていく力が社会生活に必要となってくる。人と話すことやかかわることに課題や不安をもつ生徒が多いことから「自分の思いを適切な言葉や態度にして相手に伝え、人間関係を形成する技術」を単元全体を通して身に付けさせたい。発表する機会や二人組、グループでの活動を増やし、生徒同士がかかわりながら学習する中で、実践的な態度を育てたい。これまでに、「働くためにⅠ～Ⅲ」では、他己紹介、自己紹介、商品PRに取り組んだが、授業の流れをパターン化（説明を聞く→理解する→考える→練習する→発表する→評価する）し、見通しをもち安心して授業に取り組めるようにした。また、学習課題をスモールステップで設定し、生徒が安心して見通しをもち取り組めるように工夫した。授業の中で成功体験を積み重ね自信をもつことで「やってみよう」という意欲に結び付け、実習等で学習した内容を生かし、「やりがい」に繋げたい。

展望

これまでの学習や校内実習・産業現場等における実習等を通して身に付けた働く力や態度、基本的な生活習慣をより確かなものにし、3年生での四者面談、産業現場等における実習に自信をもって臨んでほしい。また、新たな自分の課題に気づき、今後の学校生活や家庭生活上で改善に取り組んでもらいたい。

指導上の留意点

- 実習ノートで産業現場等における実習について振り返り、自分の課題を再認識させ、課題の解決方法について考えさせる。
- 実習中や四者面談に予想されることを例に、具体的な解決に向けて生徒自身で考えさせる。
- 発表する機会を増やし、自分の考えたことや思ったことを伝え、それを認める言葉掛けをすることで発表することに自信をつけさせる。
- 学習形態（ペア学習、グループ学習）は、生徒の実態を考慮する。適宜教師も支援を行い、活発な意見交換をさせる。

指導目標

目 標	添付する項目
○ 産業現場等における実習での課題を振り返り、自分の良さや課題に気づき、今後の進路学習に意欲的に取り組むために、具体的な解決方法や実践する態度を身に付けることができるようにする。	Ⅱ－1
	Ⅱ－3
	Ⅱ－4
○ 場面に応じて、自分の長所や状況、考えを相手に伝えることができるようにする。	Ⅳ－1
	Ⅳ－5

指導計画 全 1 2 時間（本時 8 / 1 2）

次	学習内容	キャリア教育の視点	時数	資料・準備
一次	1 商品 P R 1（いずよう祭りに向けて） ・商品紹介について ・効果的な P R の仕方について	・興味・関心（Ⅲ－1） ・文字概念（Ⅳ－1） ・役割（Ⅳ－5）	2 時間	ワークシート
二次	2 商品 P R 2 ・商品 P R の実践 ・評価の分析	・あいさつ（Ⅱ－1） ・意思表示（Ⅱ－3） ・人とのかかわり（Ⅱ－4）	2 時間	ワークシート 販売用商品
三次	3 自己 P R 1 ・自分を振り返る ・産業現場等における実習の反省	・文字の活用（Ⅴ－1） ・文字概念（Ⅳ－1） ・役割（Ⅳ－5）	2 時間	実習ノート ワークシート
四次	4 自己 P R 2 ・自己 P R の実践 ・評価の分析	・あいさつ（Ⅱ－1） ・意思表示（Ⅱ－3） ・人とのかかわり（Ⅱ－4）	2 時間 本時（2 / 2）	ワークシート
五次	5 3 年生に向けて ・面接時の態度 ・就職希望の動機を伝える	・あいさつ（Ⅱ－1） ・意思表示（Ⅱ－3） ・人とのかかわり（Ⅱ－4）	4 時間	ワークシート

本時の学習

1 目標

(1) 全体目標

- 自己 P R のポイントを意識しながら，自己 P R（発表，説明，相手に伝える）することができる。
- 友達の自己 P R を見て，良かったところや改善すべきところに気付き，発表することができる。

(2) 個人目標

	目標	指導の手立て
A	○ 視線や表情を意識しながら自己 P R ができる。 ○ 友達の自己 P R を見て良かった点や改善点を発表することができる。 ○ 友達からの意見を理解し，前向きに受け入れることができる。	・発表の前にポイントを確認させる。 ・発表する前に鏡で自分の表情を確認させる。 ・友達の発表を評価することで，良かった点や改善点に気付かせる。 ・友達の発表と対比したり，具体例を挙げたりしながら一緒に良かった点等を気付かせる。
B	○ ポイントを意識しながら自己 P R ができる。 ○ 友達の自己 P R を見て良かった点や改善点を発表することができる。 ○ 友達からの意見を積極的に受け入れることができる。	・発表の前にポイントを確認させる。 ・友達の発表を評価することで，良かった点や改善点に気付かせる。 ・具体的にどのように改善すれば良いか気付かせる。

C	<ul style="list-style-type: none"> ○ ポイントを意識しながら自己PRができる。 ○ 友達の自己PRを見て良かった点や改善点を発表することができる。 ○ 友達からの意見を素直に受け入れることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の前にポイントを確認させる。 ・ 友達の発表を評価することで、良かった点や改善点に気付かせる。 ・ 自己評価と友達からの客観的な意見との違いを気付かせる。
---	--	---

2 指導に当たって

本時では相手に好印象を与えることを意識して自己PRを練習することで、3年時の実習先で自信をもって自己PRする姿勢を身に付けさせたい。教師が自己PRを例示し、相手に伝わりかつ好印象を与える自己PRをするために必要なことは何であるか話し合い、生徒自身が気付けるようにしたい。また、その気付きから、「声の大きさ」「視線」「姿勢」等意識して「相手先のニーズに合った長所」を相手に伝えることが重要であることを理解させたい。発表に向けての練習では、一人で練習した後、友達と二人組で確認しながら練習することでお互いに教え合い高め合い、意欲を高めるようにしたい。さらに、二人組を作る際は、人とのかかわりを苦手とする生徒には特に配慮し、スムーズに練習ができるようにしたい。発表者は、相手に伝わるように「声の大きさ」「視線」「姿勢」を意識しながら、また見る側はポイントに沿って発表できたか、PR内容は好印象をもてたかを評価する。そして改善点を伝えたり、良かった点を賞賛することで発表することに自信がもてるようにしたい。自信をもつことの積み重ねが「やってみよう」という意欲につながり、「やりがい」の実践につながると考える。

3 実際（別紙）

4 評価

(1) 全体評価

- 自己PRのポイントを意識しながら、自己PR（発表、説明、相手に伝える）することができたか。
- 友達の自己PRを見て、良かったところや改善すべきところに気付き、発表することができたか。

(2) 個人評価

	目 標	評 価
A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視線や表情を意識しながら自己PRができたか。 ○ 友達の自己PRを見て良かった点や改善点を発表することができたか。 ○ 友達からの意見を理解し、前向きに受け入れることができたか。 	
B	<ul style="list-style-type: none"> ○ ポイントを意識しながら自己PRができたか。 ○ 友達の自己PRを見て良かった点や改善点を発表することができたか。 ○ 友達からの意見を積極的に受け入れることができたか。 	
C	<ul style="list-style-type: none"> ○ ポイントを意識しながら自己PRができたか。 ○ 友達の自己PRを見て良かった点や改善点を発表することができたか。 ○ 友達からの意見を素直に受け入れることができたか。 	

生徒の実態

	産業現場等実習を振り返って良かった点と反省点	「やりがい」に関する実態				産業現場等における実習	キャリア教育の視点から (単元での課題)
		みつめる	よそうする	やってみる	ふりかえる		
A	<p>(良かった点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓の大切さを学ぶことができた。 ・時間を毎日守ることができた。 ・自己紹介ができた。 <p>(反省点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場の人との会話に参加することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度は真面目だが、自分が体験し必要性を感じないことに関しては、興味・関心が低い。 ・学習したことが、現場実習で役に立ったことで進路学習に対して意欲的に取り組めるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉での説明は聞いているように見えるが理解することが難しい。個別に説明する必要がある。 ・個別に細かく具体的に指示すると理解できる。 ・自分から質問するのは苦手である。 ・一度理解したことはできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのコミュニケーションは苦手であり、二人組等の話し合い活動では、教師の支援が必要な場面が多い。 ・他人に対しての関心が薄かったが、少しずつわかかわりが増え言動に変化が出てきた。 ・自分から発表することは少ないが、指名すると答えることができる。現場実習後、少しずつ自分から挙手し発表するようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初、友達からの評価に対して興味を示さなかったが、少しずつ肯定的に受け入れるようになってきた。 ・教師が分かりやすい具体例を挙げる等細かく説明する支援が必要である。 	<p>「宮之城 福祉園 支援センターさつま」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就職は支援があれば可能である。(周りの理解と協力が必要) ○作業内容の理解力はある、集中し意欲的に取り組むが対人関係が苦手な様子。今後、少人数の前であいさつ、発表等の経験の必要を感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ (Ⅱ-1) ・意思表示 (Ⅱ-3) ・人との関わり (Ⅱ-4) ・進路選択 (Ⅲ-3) ・家庭生活習慣の基礎 (Ⅳ-4)
B	<p>(良かった点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で元気にあいさつすることの大切さを実感できた。 <p>(反省点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰が痛くなり、体力をつけないといけないと感じた。学校でのランニングと家でのウォーキングを頑張る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を理解し、意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習してきたことを関連させて本時の学習課題に取り組むことができる。 ・教師の説明をよく聞き、理解できる。また、分からないことは質問することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して話し合い活動や発表などの学習活動に取り組むことができる。 ・自分から発表することができる。 ・友達の発表をポイントを押さえながら評価することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他人からの評価を積極的に受け入れることができる。 ・自分の課題について深く見つめ直す姿勢に欠け、表面的な反省に終わることが多い。 	<p>「大口園」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎日意欲的に取り組んでいる。日を重ねる毎にコミュニケーションの範囲も広げることができていた。 ○各作業にいち早く慣れれば他の利用者の手本になるのではと思う。 ○高い意欲と向上心、大変すばらしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ (Ⅱ-1) ・進路選択 (Ⅲ-3) ・家庭生活習慣の基礎 (Ⅳ-4)
C	<p>(良かった点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事がてきぱきできた。 ・行動が早くできた。 <p>(反省点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事の内容に関しては話は出来たけど、休憩時間などに会話があまりできなかった。 ・体力不足を感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明をよく聞いているように見え、発言もよくするが、早合点し、発言内容がずれていくことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力は高いが、教師の説明を最後まで聞くことができず、早合点したり、誤った理解をしたりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から発表することができる。 ・教師の注意を引くためや照れから、教師の意図に反した言動をすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉による理解はしにくく、他人からの意見は軽く流そうとする傾向がある。しかし、実習等で自ら体験して得た反省点については素直に受け取ることができるようだ。 	<p>「スカラー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スムーズに実習に入っていた。指示や言葉掛けにハキハキ答えていた。 ○仕事は問題なくできており、課題と思われたコミュニケーションも特に問題にならなかった。 ○2週目はかなり疲れているようだった。本人も体力不足を感じていた。 ○好感をもっていただき、今後について「いつでもどうぞ」と返事があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ (Ⅱ-1) ・意思表示 (Ⅱ-3) ・人との関わり (Ⅱ-4) ・進路選択 (Ⅲ-3)

3 実際

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点・やりがいポイント		
			生徒A	生徒B	生徒C
みつめる よそ うする	10分	1 始まりのあいさつをする。 2 今日の学習について知る。 ポイントを押さえながら自己PRをする。	○ 授業に見通しをもたせるためにパターン化した流れで授業を進め、板書で分かるようにする。		
やってみる	40分	3 教師の自己PR（悪い例）を見て、気付いたことを発表する。 4 人と話すときに気を付けることを知る。 5 自己PRの練習をする。 (1) 発表原稿を作る。 (2) 練習する。	○ 「声が小さい」、「視線が合わない（話す人を見ない）」、「姿勢が悪い」等の悪い点が分かりやすいように、STが例を示す。 ○ 悪い例で相手から話し掛けられたらどんな気持ちになるかをそれぞれに聞き、人と話すとき（話を聞いてもらうとき）に相手に気持ちよく聞いてもらうには、「声の大きさ」、「視線」、「姿勢」が大事であるということを確認させる。 ○ 自己PR用のワークシートを配布し、個人の面接先を記入させる。 ○ 姿勢や表情がよくない（改善点に気付いていない）生徒には姿見や手鏡を使って練習させる。 ○ ポイントを確認しながら、二人組で練習させる。		
休 憩					
本時	40分	6 みんなの前で一人ずつ自己PRをする。 (1) ポイントの確認をする。 (2) 評価表の説明を聞く。 (3) 教師の例で確認する。 (4) 一人ずつ自己PRをする。 (5) 友達の評価をする。	○ 前時の学習について振り返らせ、自己PRを行うことを知らせる。 教師の悪い例を参考にしながら、自己PRのポイントを知ることができる。 (視線や表情に気を付ける。) (声の大きさ、視線、表情、姿勢に気を付ける。) ○ 友達の自己PRを評価表で確認することを伝え、悪い点、良い点をそれぞれ見付けられるように言葉掛けをする。 ○ 友達の自己PRを評価表に記入できるように、STが例を示しながら具体的に説明を行う。 姿勢や表情を意識しながら、自己PRをすることができる。 ポイントを意識しながら自己PRをすることができる。 ポイントを意識しながら自己PRをすることができる。 ○ 自信がもてるように、以前より上手にできるようになったことや、やる気が感じられることを一人ずつ具体的に賞賛する。 ○ 自己PR後は評価表を書くように促し、気付いたことを発表させる。 ○ 発表する際は「声の大きさは〇〇でした。」等、評価表に沿って具体的に発表させる。 友達の自己PRを見て、悪い点、良い点をそれぞれ発表することができる。 友達の意見を理解し、前向きに受け入れることができる。 友達の意見を積極的に受け入れることができる。 友達の意見を素直に受け入れることができる。 ○ 発表に具体的なことが無い場合は、教師が例示したりヒントを出したりして、具体的な気づきを促す。 ○ 「声の大きさはどうだった？」等の具体的な質問をし、一人一人の生徒が行ったことを確認し、成長している点や改善点を確認できるようにする。 ○ 次時の学習活動について説明する。 ○ 各自教室に行く等、授業後の動きについて説明する。		
ふりかえる	10分	7 まとめをする。 8 終わりのあいさつをする。			

やりがいポイント